

英米文学専攻（修士課程）の3つのポリシー

【教育の理念】

英米文学専攻修士課程は、英米文学、英語学、英語教育を研究することによって英語圏の社会・文化・思想の本質に触れ、イギリス人やアメリカ人の精神構造を明らかにすることを主たる研究目的としており、高度な英語力を身につけるだけでなく、研究領域についての深い学識と幅広い教養を身につけ、異文化理解の促進に絶えず関心を持ちながら、国内外の教育現場や専門的なスキルが求められる企業で活躍しうる人材育成を教育理念とする。

【修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

本専攻修士課程に2年以上在学し、所定の単位を30単位以上（選択科目22単位以上、1・2年次における指導教員の演習それぞれ4単位ずつ）を修得しなければならない。指導教員による研究指導を受け、英米文学、英語学、英語教育に関する修士論文を提出し、論文審査及び最終試験に合格しなければならない。専攻する分野において必要とされる学識、能力、技能を有することが認められた者に、修士の学位が授与される。

(DP1) 専門分野の知識や技能の活用力

英米文学、英語学、英語教育に関する高度な専門的学識と幅広い教養、高度な英語力を身につけている。国内外の教育研究の場やこれらの専門性が必要とされる職業において、グローバルな活躍と貢献をなすことができる。

(DP2) 情報分析、課題設定および問題解決能力

英米文学、英語学、英語教育に関する基礎的な知識や先行研究を土台として、そこから主体的に疑問点を見出し、自らの課題を設定することができる。また、関連する情報を収集して分析を重ね、論理的に自らの課題を解決し、新たな知見を見いだす創造性を兼ね備えている。

(DP3) コミュニケーション能力

英語による論文の作成や研究発表の機会において、自らの意見を論理的かつ明確に伝えることができる。同時に、他者の考えと価値観を尊重しつつも、自らの専門的な学識に基づいて建設的な批判を行い、専攻する研究分野の発展のために協働的姿勢で研究に取り組むことができる。また、研究倫理を遵守し、適切な方法やツールを用いて自らの考えをグローバルに発信することができる。

【教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）】

少数精鋭の指導や個別指導を行い、院生各自の研究テーマに合わせた、入念な指導を行うための教育システムが構築されている。1年目より「英米文学」の文学系、「英語学」と「英語教育」の言語教育学系、それぞれの専門科目を配置して幅広い知見に触れる機会を提供し、様々なジャンルの英米文学作品の精読に加えて、論

理的思考力を要する論文記述の方法論を習得する目的から、英語で書かれた論文や評論の輪読も行われる。これに加えて、各自の専門分野の学会や研究会で発表する力をつけるために、年数回の口頭研究発表の機会を設けており、その研究成果を紀要論文集『試論』に投稿できる。この紀要論文執筆の過程において、院生は指導教員のチェックを受け、文学系、言語教育学系の各専攻分野における研究に関する広範な知識と研究を深化させる分析力を身につけ、自らの議論を論理的に組み立てる能力が培われる。院生は合計2本の論文を紀要論文集『試論』に発表できる。こうした一連の取り組みは、最終的に修士論文作成に活かされることを念頭に置いている。また、他専攻や交流協定校「学生交流協定（他大学大学院及び大学共同利用機関履修）」の授業科目、合計10単位を上限として履修できる環境にある。この履修制度は院生各自の見識を広める事に役立っている。

1. 教育内容

- 1) 講義科目は、専門基礎力及び学術研究技術の基礎を涵養し、理論的、実践的基礎を築くために開講する。
- 2) 演習科目は、専門領域・研究課題に応じて修士論文・課題研究の作成上必要とされる指導や議論を繰り返すことにより、緻密な研究指導を行う。
- 3) 1～2の集大成として提出される修士論文または課題研究を完成させ、それについて、審査及び最終試験を実施する。

2. 教育方法

- 1) 講義科目では、基礎的な研究手法や研究能力を体得し、少人数での個別・グループ形式で授業を行う。
- 2) 演習科目を中心とする修士論文の作成指導においては、教員と学生の間で「学位授与の方針」及び「学位論文審査基準」を共有し、密接なコミュニケーションをとりながら実施する。
- 3) それぞれの授業科目を組織的に履修することにより、専門性を追求しながらも狭量な思考に偏らないよう、指導教員を中心に指導を行う。
- 4) 修士論文の審査にあたっては、主査1名と副査2名以上で構成される審査委員により、「学位論文審査基準」に則って厳格な審査がなされる。最終試験においては、「学位授与の方針」に基づき、学位授与に必要とされる専門的な学識、技能、研究能力を身に付けていることを詳細に確認する。
- 5) 研究倫理教育は、一般的な内容についてはeラーニングなどの方法を用いて広く提供し、各専門分野特有の研究倫理については、研究指導を通じて指導することにより補完する。
- 6) 学生調査・アンケート等の結果に基づく客観的な評価指標によって検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へのフィードバックを行う。

3. 評価

修士課程では、修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者受け入れの方針(アドミッション・ポリシー)の3つのポリシーに基づき、学生の入学時から修了時までの成長を視野に入れ、英米文学専攻の教育課程レベル、科目レベルの2段階のレベルで学習成果の評価・測定を行う。

4. 修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

授業科目等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	各科目等のねらい
講義科目	4	1・2	◎			専門分野の知識及び情報収集・分析などの研究上必要な知識や手段について体系的に身に付ける。
演習科目	4	1・2	○	◎	○	個別の研究テーマに基づき、指導教員と緊密なコミュニケーションをとりながら、議論や発表を行い、修士論文作成に役立てる。
実習科目	該当科目なし					
修士論文	—	—	○	◎	◎	2年間の学修の集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する。
研究倫理教育	—	1	○	○	◎	研究者として求められる基本的な研究倫理を身に付け、常に留意して研究活動を行う。

【入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）】

英米文学専攻修士課程は、英米文学、英語学、英語教育といった研究分野についての深い学識と幅広い教養を持ち、異文化理解の促進に意欲のあるグローバル人材の育成を教育理念としている。このような目的に基づき、熱意をもって専門分野の研究に打ち込む意欲のある人材を求めている。本学からの進学者はもちろんのこと、他大学の出身者や社会人にも広く門戸をひらいている。以上の方針に基づき、通常9月と2月に年に2度の入学試験を行っている。

1. 求める学生像

- (AP1) 英米文学、英語学、英語教育の分野に関わる知識や技能を幅広く修得し、大学院での学修に必要な基礎学力を有している。(知識、理解、技能)
- (AP2) 英米文学専攻で学んだ専門的知識や技能を社会に還元し、貢献しようとする強い意欲と目的意識を持つ。(意欲、関心、態度)
- (AP3) 主体的に課題を設定し、様々な情報に基づき適格な判断と考察を行い、その結果を他者にわかりやすく根拠を持って論理を展開することができる。(思考力、判断力、表現力)
- (AP4) 多様な他者の考えや価値観を尊重して協働しつつ、自らの考えを適切なツールを用いて発信する意欲を持つ。(主体性、多様性、協働性)

2. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎:特に重点を置いている ○:重点を置いている

入学試験制度	選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学試験制度のねらい
一般入学試験 (学内推薦入学試験を含む)	出願書類	○	◎	◎		学士課程レベルの基礎的な専門知識があると認められる者に対し、研究に必要な専門知識や語学力を重視した選抜を行う。筆記試験は記述式で行い、専門科目試験と外国語試験の3科目で実施される。面接試験では、専門知識と研究意欲の確認を行う。学内推薦入学試験は、出願書類審査と面接試験により行う。
	筆記試験	◎		○		
	面接試験	◎	◎		○	
社会人特別 入学試験	出願書類	○	◎	◎		主に大学卒業後一定年数経過した者、および大学卒業後に専門分野に係る実務経験が2年以上の者を対象とする。筆記試験は記述式で行い、専門科目試験と外国語試験の3科目で実施される。面接試験では、専門知識と研究意欲の確認を行う。
	筆記試験	◎		○		
	面接試験	◎	◎		○	
外国人留学生 入学試験	実施していない					